

研究トピックス

愛知県では薬剤耐性のあるコムギ赤かび病菌は未発生

ムギ類赤かび病は、コムギの収量低下だけでなく、人畜に有害なかび毒による麦粒の汚染を引き起こします。近年、本病の主要な防除薬剤であるチオファネートメチル剤耐性菌が他県で確認されたことから、本県では平成22～24年に県内各地域の罹病穂から分離した164菌株について耐性菌の有無を調査しました。その結果、



コムギ赤かび病の罹病穂

耐性菌は認められませんでしたでしたが、耐性菌出現を抑制するため、作用性の異なる薬剤とのローテーション防除が必要です。

(環境基盤研究部)

「深水無落水栽培」による玄米の外観品質向上

近年、夏季の異常高温による玄米外観品質の低下が問題となっています。

愛知県が開発した省力的な栽培法である「不耕起V溝直播栽培」と湛水深を深くする「深水

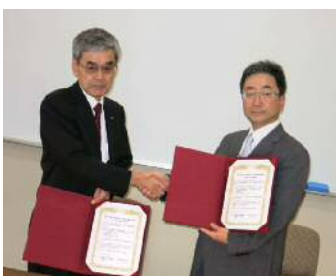


管理(水深15～20cm)」を組み合わせた「深水無落水栽培」が、玄米外観品質の低下を防ぐことを明らかにしました。雑草の抑制や減肥栽培の可能性も示されており、環境保全でも本県農業生産への貢献が期待されます。

(作物研究部)

名城大学農学部・大学院農学研究科と研究協力協定を締結

平成25年9月17日に、当地域における学術の発展及び農業の振興を図るため、名城大学農学部・大学院農学研究科と研究協力に関する協定を締結しました。この協定により、組織的な連携



体制の構築を図り、農業における育種・栽培技術の高度化や農作物の高付加価値化、環境保全型農業の確立などの課題に取り組みます。

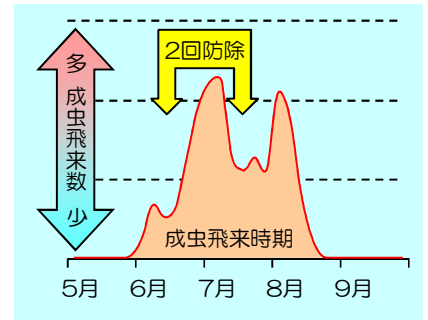
(企画普及部)

ブドウ害虫クビアカスカシバの防除法を確立

クビアカスカシバは、成虫がスズメバチに擬態し、幼虫がブドウの樹を食べる蛾の仲間です。成虫飛来時期の調査から、幼虫発生時期を推定しました。この時期にしっかり防除すると、ほとんど被害がなくなります。(環境基盤研究部)



樹の被害



幼虫



成虫

本研究は「農作物有害動物発生予察事業」で実施しました。

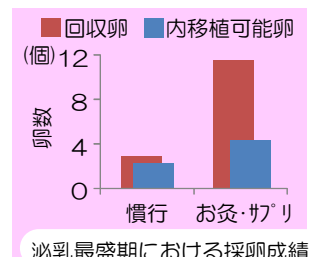
お灸で搾乳牛からの受精卵採取を改善

乳牛改良のために、能力の高い母牛から受精卵を採取します。ところが、搾乳中、特に泌乳最盛期には十分な採卵数を確保することは難しく、一方で、泌乳後期の採卵では分娩間隔が長くなるため、生乳の生産効率が低下します。

そこで、お灸と抗酸化サプリメントにより、泌乳最盛期でも、十分な卵数を採取できることを明らかにしました。この技術により効率的な後継牛生産が期待されます。(畜産研究部)



お灸の様子



泌乳最盛期における採卵成績

研究短報第108号

編集・発行 愛知県農業総合試験場

〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線323 (企画普及部)

FAX 0561-63-0815

<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>